

調査研究に関する中間報告書

提出年月日		令和3年6月25日	部 名	微生物部
調査研究課題		宮崎県で発生した新型コロナウイルスの分子疫学調査		
調査研究体制	主任研究者	三好 めぐみ		研究区分 (小分類)
	その他の研究者	成田 翼、水流 奈己、宮原 加奈 吉野 修司、杉本 貴之 黒田 誠 (国立感染症研究所)		
	調査研究期間	令和2年度 ~ 令和4年度 (3か年間)		
	調査研究費	予算項目	令和2年度	令和3年度
	国 費	千円	千円	千円
	県 費	500千円	500千円	500千円
	そ の 他	千円	千円	千円
	合 計	500千円	500千円	500千円
調査研究の目的		<p>新型コロナウイルス感染症はパンデミックを起こしており、宮崎県も現在(令和3年6月15日)までに第4波まで発生し、3053人の陽性者が報告されている。</p> <p>本研究では、宮崎県で発生した事例から新型コロナウイルスの全ゲノム解析を行い、ハプロタイプ・ネットワーク図を作成することで、積極的疫学調査だけでは判明しなかった知見を得る事を目的とする。さらに、感染拡大防止の一助となる情報を得ることを目的とする。</p>		
調査研究の進捗状況 (これまでの成果や問題点等を含む。)		<p>令和2年3月から令和3年2月までに当所で陽性となった検体のうち、196検体が解析終了した。検体はCt値が32未満のものとした。さらに令和2年11月~令和3年2月の第3波の検体は、国からの要請に従いクラスター事例のみとした。</p> <p>その結果、令和2年3~4月の第1波は主に Pangolin 系統 B.1.1、令和2年7~9月の第2波は主に B.1.1.284、令和2年11月~令和3年2月の第3波は B.1.1.214 に属しており、大きく9つのクラスターに分類された。管轄保健所関係から、あるクラスターに属すると考えられていた集団が、ゲノム解析の結果、異なるクラスターに属する事が判明し、ゲノム解析の有用性を確認できた。また、高齢者施設や教育・保育施設がネットワーク図の末端に位置していたことから、高齢者及び教育・保育施設はクラスターが発生しやすく規模が大きくなりやすいものの、そこから感染が拡大するリスクは低いと推測された。さらに、これらの施設クラスター発生の前には、接待を伴う飲食店やスポーツ施設、カラオケ等のクラスターが探知されていることから、感染拡大防止のためには、これら施設に感染が広がる前に行政が介入していくことが重要であると考えられた。</p> <p>今後は令和3年3月末からの第4波の検体の解析を進めて、新たなネットワーク図を構築していく。さらに、自施設での検査を拡充させて過去の散发事例を解析することと、疫学調査を充実させることで、より正確な調査を行う予定である。</p>		
備 考	第80回日本公衆衛生学会で発表予定			